

れんごう

2015. 8. 10
 第 8 号 通算 204 号
 日本労働組合総連合会新潟県連合会
 県央地域協議会
 (連合県央地協)
 〒955-0852 三条市南四日町1-15-8
 TEL 0256-32-6363 Fax0256-32-6490

『戦後70年 次代へつなぐ平和への想い』 — 平和集会

8月4日(火) 18:30~リサーチコア7Fマルチメディアホールにおいて、260名ほどの参加で、2015平和集会「戦後70年 語り部による次代へつなぐ平和への想い」を開催しました。

語り部の五十嵐 巖(いわお)さんは上越市牧区(旧牧村)在住93歳。新発田市の陸軍東部第23部隊に入隊し、ビルマに入りインパール作戦に参加。軍服姿で登場し「戦争は、人間同士が殺し合うこと。相手を殺さなければ、自分が殺される悲惨なもの。もう二度と繰り返してはならない」と語り始めた。昭和18年、陸軍へ入隊。「連日の猛訓練に仲間と声をこらえて耐えた」その訓練を終え、フィリピン部隊へ。翌19年1月、すでに敗色濃いビルマ戦線へ。兄弟のように仲の良かった戦友が切り込み隊の命令をうける。「別れの前日に、二人で星空を眺めふるさとの話し、月の砂漠、夕焼けこやけを歌った。涙が止まらなかった」そして翌日に友は戦死。復員後、ご両親に形見のメモを届けたとき「あの子は日本の平和の礎になってくれたと言われた。どれほど切ない思いだったか」敗戦色が一段と濃くなり、戦車に爆弾を抱えて飛びこむ戦法が始まる中、砲弾により負傷。「捕虜より自爆をと思った、ふるさとや両親が頭に浮かんだ」濃霧にも助けられ九死に一生を得る。

最後に「今も南方の地に戦友が眠っている。あなた達のおかげで平和がある。」「絶対に戦争は繰り返してはならない」「親の恩は山よりも高く海よりも深い。両親を大切に」と語り、「悲惨な戦争を体験した者として、命ある限り平和の尊さ、大切さを語っていきたい」と結びました。



<五十嵐さんの想いが聞く人に伝わっていきます>



<姿勢を正して語る五十嵐さん>



会場には、連合構成員の他、家族の子どもや「兄がビルマで戦死している。五十嵐さんにお会いしたくて参加した」という一般の方の姿も。



講演後のアンケートでは「感動して涙が止まりませんでした。戦争は絶対に繰り返してはだめ」「平和の尊さを改めて考えさせられました」「高齢の五十嵐さんの直立した姿勢、平和への想い。そしてハーモニカ演奏、貴重なお話ありがとうございました」などの声が寄せられました。また、会場で平和福祉募金を行い、24,825円が寄せられました。本当にありがとうございました。

最低賃金引き上げに関する街頭宣伝行動

8月4日(火) 11:00~ イオン県央店前交差点で「最低賃金引き上げに関する街頭行動」を行いました。

佐藤事務局長、連合新潟筒井副事務局長は「働く者の処遇に大きく影響する新潟県の最低賃金がもうすぐ決まる。目安の16円増では格差が開く一方だ。私たち連合新潟は現行の715円からの大幅アップを求めている。1時間1,000円を目指し、当面の目標として1時間800円を早急に実現するために全力をあげる。一緒に行動しましょう!」「地方創生に逆行する各差拡大は許さない!」「戦争できる国にはさせない、ブレーキの効かない安保法案には反対!」を訴えました。

高倉県議も応援弁士として登場し、「この地域は中小零細企業が多い。安倍総理の言う景気回復の実感はない。安心して働ける、暮らせるためにも最低賃金の思い切った改定は必要だ!」さらに「人口減少社会が提起されているが、だからこそ、子育てや暮らしへの政策、基幹病院などの整備が必要だ。そのために頑張る」と汗を飛ばして訴えました。

私たち連合は「最低賃金の大幅改定」の他にも「労働法制改悪ストップ」など、パートや派遣労働者、未組織労働者などすべての働く人々を包括した取り組みを展開しています。



<酷暑の中の街頭行動>

お知らせ

青年女性委員会主催 サマーパーティー

- ・会 場 燕三条ワシントンホテル
- ・日 時 8月28日(金)
19:00~(受付18:30~)



アジアアフリカ救援米稻刈り

- ・日 時 9月26日(土) 9:30~
- ・会 場 三条市上林公民館分館(上林小前)

※同日8:00~
 列島クリーンキャンペーン
 (清掃活動)を予定



役員研修会

「三条機械製作所」工場見学意見交換会

- ・日 時 9月下旬 (調整中)
平日14:00~
第二部交流会あり



「働くことを軸とする安心社会」の実現に向けた政策パッケージ

橋Ⅰ 教育と働くことをつなぐ

- すべての子どもたちに学ぶ機会を保障
- 誰もが排除されないインクルーシブ教育システムの構築
- 働くことの意義・生きる知恵を学ぶ機会の拡充
- 学ぶ場から働く場への円滑な移行支援
- いつでも学び直しができる環境整備

「貧困の連鎖」を断ち切り、学ぶ場から働く場へ円滑に移行できる制度を確立します！



橋Ⅲ 働くかたちを変える

- 「期間の定めのない直接雇用」を基本に完全雇用が実現
- 雇用政策と一体となった産業政策の推進で良質な雇用創出
- 働く側が選択できる働き方の多様化を実現
- 公正なワークルールの整備
- 集团的労使関係システムの構築

ライフステージに応じた柔軟でディーセントな働き方を整備します！

教育

家庭

雇用

橋Ⅱ 家族と働くことをつなぐ

- 働き続けることができる公平・公正なワークルールの実現
- 男性の家事・育児や地域づくりへの参加促進
- 妊娠、出産、子育て、介護を支えるサービスや所得保障の拡充
- 性やライフスタイルに中立的な制度改革
- 生活の基盤である居住保障と医療保障の確立

子育てや介護を社会全体で支え、男女平等参画社会を構築します！

高齢者の知識や経験を社会に活かし、老後の安心を保障する制度を構築します！

橋Ⅴ 生涯現役社会をつくる

- 社会的貢献や文化活動など幅広い活躍をサポート
- 信頼の所得保障制度（公的年金、企業年金など）の整備
- 地域での医療・介護へのアクセス保障

橋Ⅳ 失業から就労へつなぐ

- 復職・就労支援のパッケージ戦略の構築
- 4層のセーフティネットの構築
 - ・すべての労働者に雇用保険・健康保険を適用（第1のセーフティネット）
 - ・雇用保険の給付対象とならない人への支援制度拡充（第2のセーフティネット）
 - ・生活保障制度の確立（第3のセーフティネット）
 - ・住居と医療の保障（第4のセーフティネット）

職業紹介、職業訓練、所得保障の一体的支援でスムーズな復職をサポートします！



失業

基盤

退職

地方分権を進め、公平な負担に基づく持続可能な社会の基盤をつくります！

「働くこと」につなげる5つの「安心の橋」を架けよう！

誰もが働き、つながることのできる、希望と安心の社会へ

私たちのくらしは、多くの人たちが働き、互いに支え合うことで成り立っています。

しかし、失業や就職難、家庭の事情など、働きたくても働けない状況にある人が増え、社会から排除されたり、孤立している現実があります。就労をめぐる様々な困難を取り除き、「働くこと」を通じて社会に参加できるルート、「働くこと」につなげる5つの「安心の橋」を整備していくことが求められています。

基盤 「働くことを軸とする安心社会」を支える

- 信頼のおける政府の実現と地方分権の推進
- 「新しい公共」の促進（NPO、協同組合、社会的企業との協働）
- 負担を分かち合う公平・連帯・納得の税制の確立
- CSR（企業の社会的責任）の推進
- 低炭素社会への転換とグリーン・ライフなど新たな産業・雇用の創出
- 雇用創出や労働条件の向上を起点とする持続的な成長の好循環の実現